第 115 回　運輸の日

日　時　　2019 年 07 月 09 日（火）10：30～15：00
場　所　　大和市：東神トラックステーション
行動員　　4 名
配　布　　52 枚

第 115 回『運輸の日』が、大和市東神トラックステーションにて、4 人の行動員で実施されました。
本日は、曇り空で少し肌寒く感じる 1 日でしたが、トラックの入りが多いので寒さを感じる事なく行動ができました。
今回も有給について、『年間どれくらい取れてますか？』という設問に皆さん応えていただきました。その他、世間話から「こんな状況になっている」など働く環境について話してくれる方もいました。

今、この業界で起きていることは、「実運送のドライバーが足りない！」そのために「公休日以外は休ませてもらえない！」さらには「荷主のカレンダーで動いているので、代わりの人もいないし休みづらい」と話してくれました。
また、「トラックドライバーの休息・休憩施設が少なくなっている。増やしてほしい。」実態として、「荷主の工場でも、時間にならないと入らせてもらえない。休憩を取ろうと思ってもトラックを停める場所がない」と話してくれました。
休めない！停まれない！労働環境には問題がある、安全運転に欠かせない休憩時間・場所の確保が急務である。

岸　（SSXU）

松本（日新）

阪本（日新）

井上（ヤマト横浜）

運転手さんの声
・タコメーターで管理が徹底され時間外管理も厳しくなっている
・土日休み＋月１回の有給取得だが賃金が下がるなか生活は厳しい（三重 60 歳）
・止める場所がない。コンビニも止められず客先でも待たせてもらえない環境が悪化している
・休む場所も限られ多くのトラックで混み合う（特に都内）
・月６～７日の公休があるが、有給は全く取れない。（福岡）
・有給は取れている。入社７ケ月目、５日間付与で全て取得（横浜）
・週末がメインの仕事のため、有給消化はなし。（滋賀）
・有給かどうかわからない（栃木）
・仕事がない場合は休みになるがそれが有給かどうかわからないが、急な業務で出勤することもある。待機時間とはカウントされない。アイドリングしている間の燃料費を給料から引かれる。（佐世保）
・制度がない、これからの課題。（静岡）
・転職したばかりでわからない（和歌山）
・人がいないので取得できない（神奈川）
・入社したばかりなので取得していない（大阪）
・個人的には取得していない（福井・千葉）
・10 日間くらい取得している（神奈川）
・８日ぐらい。週休２日制なのであまり取得しない。（神奈川）

本日の行動者と感想
岸　　昇　（SSXU 京浜支部）
本日は、天候曇りで７月とは思えない気温です。アンケート１点、有給休暇を年間どのくらい取得しますか？に対して、業界特有なのか、ほとんど使わないが多く、制度事態がないと答えてくれたドライバーさんもいました。中には 14～15 日位使っているドライバーさんもいました。業界の中でも有給休暇の取得に格差があるのが事態です。

松本　佳保（日新労組）
アンケート報告（有給取得日数について）
０日：神奈川　１日：福岡　２日：千葉・和歌山・熊本　３日：富山　４日：静岡
５日：神奈川　10 日：三重　との運転手さんの声をいただきました。
今回、２回目の参加となりますが、前回同様に『休息するスペース』への課題があると感じた。
東神トラックステーションはまだしも、都内は全くない状況である。
また夜中、高速道路の SA も満杯で休息が取りにくい状況を今回も聞いた。
安全運転に直結する課題として対策を講じるべきと考える。
安心してモノを届けられる環境こそが、運転手不足への対応にもなると考え、賃金引き上げと合わせて取り組むべきだと感じた。

井上　　雄介（ヤマト運輸労組横浜支部）
各トラックドライバーにアンケートを行い、「年休は年間に何日取得しているか？」について調査を行いました。ほとんど取得出来ていない実状があり、そのなかでも、年休の制度自体会社から説明を受けていないドライバーもおりました。一方で横浜のドライバーは入社７ヶ月目で年休完全取得していると聞きました。
長崎からきているドライバーは、自宅での休みに緊急で仕事が入るかも知れないから、休みでも待機しているとの話を聞きました。本来は拘束時間としてカウントされなければならないことも、休み扱いをされてしまう環境にあると言います。またアイドリングしながら休憩している時間の燃料代は給与から天引きされている給与体系があると伝えられました。労働環境の改善を早急にしていかないと若手が入って来ないと 69 歳ドライバーは危惧していました。
法的に規制をかけても会社は抜け道も見つけてしまうといいます。
改善を会社に要求しても通らず、弱い立場のままで耐えながら業務をこなすドライバー、が社会に必要不可欠な存在であることを訴えていく必要を感じました。
こうした運輸業界の実態を持ち上げ、改善に向けて行動する運輸労連の組織の重要さが改めて理解出来ました。

阪本志津喜（日新労組）
今回の運輸の日は曇天のなか東神トラックステーションにて実施。
トラックは多数停まっていたものの、声掛けが進まなかった。アンケートでは有給休暇の取得状況について聞きましたが人手不足や給料が減るなどの事から取得しないとの声もあった。
今後は、意識と給与の改革を行わないと駄目ではないかと感じた。